

未来につなげる平和

岩日タイムズ

発行者

築 真優子

戦争の悲惨さ物語る 予科練平和記念館

六月十三日に、今年度初となる合同取材が行われました。今年の信州総文祭に県代表として出場する、つくば秀英高校、古河中等教育学校、本校岩瀬日大高校の三校が集まりました。三校は昨年より定期

的に合同取材を行い、茨城県の新聞部会のパワーアップを図ってきました。今回は、阿見町の「予科練平和記念館」と、つくば市の「筑波学院大学」の二箇所を取材しました。



予科練生だった戸張さんとともに

予科練（海軍飛行予科練習生）平和記念館」は、予科練について理解してもらいたい願いを込めて、2010年に建設されました。付近から見つかった実物を展示したり、当時使われてた戦闘機を模型で表したりと、戦争を詳しく知らない世代でも、分かりやすく学べることでできる施設です。

今回、私達は当時予科練生として毎日厳しい訓練に耐えていた戸張礼記さん（90）の講話を聞きました。戸張さんは昭和十九年に、予科練生募集のポスターを見て「かっこいい」と思い、入隊を決意したそうです。当時予科練生を



怖い体験をした「バッター」

く苦しい訓練でもバッターを超えるものはないと戸張さんが断言するほど、バッターという存在の怖さを改めて身にしみました。終戦時は青森県の訓練基地にいた戸張さんは、降伏を伝えるラジオを聞いた時、正直戦争に負けた悔しさよりも生きた家に帰れる喜びを感じたそうです。しかしそれを公言することもなく、終戦後は平成元年まで教師として職務を全うし、記念館設立後は、多くの来館者に教科書には載っていない予科練について語ってきました。予科練を語る戸張さんは時々言葉につまりながらも、予科練生時代を貴重な人生体験と捉え、平和でいられる喜びなどを戦争を知らない来館者に対して平和の大切さを語ってくれました。また、平和は皆で守りつないで行くものと、これからの平和について教訓として教えてくれました。

編集後記

平和な時代に生きている私達は平和のあり方を感じられず、日々の多忙さに嫌気がさす事があります。しかし今回の話を聞いて、平和のありがたみを実感することができました。戦争という、辛く厳しい時代を生きた人々にとって、今の時代はとても平和で居心地がいいと言えます。平和は誰かが作ってくれるのではなく、皆で守り、受け継いでいくという戸張さんの言葉を胸に、私達から更に未来に平和が続くとともに、予科練の存在も負の出来事として消すことなく、これからも伝えていくべきだと思います。（築）



予科練について語る戸張さん